

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	令和2年6月15日	評価結果市町提出日	令和2年8月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600285-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 7 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現場独自の理念「笑顔・家族」をモットーに、皆が楽しく生活できるように心掛けている。天然温泉を使用しており、大浴場でのんびり入浴して頂いている。自然を満喫出来る様に近くに「東屋ガーデン」を造り野菜や花を育てており、日光浴も出来る。他の施設との合同での夏祭り・秋祭りは毎年の一だ行事となっており、地域の方・家族様にも多数参加して頂いている。災害に対する意義は重要であり、備蓄の管理等確認している。外国人実習生の受け入れにも力を入れており今年1名入社している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所では利用者に対し、いつも笑顔で接するよう心掛けるとともに、多忙な家族や中には利用者複雑な関係にある家族でもその繋がりを絶やさないように取り組んでいる。また利用者個別の事情によく配慮しており、例えば尿失禁が多かった方に対し、職員間で話し合いパットの工夫からやがて失禁がなくなって、不潔行為が解消した利用者がある。あるいは希望に応じて入浴日以外に入浴や夜間入浴にも応じる等の取り組みは大切な成果と考えられる。こうしたことは、経験の浅い職員も交えて全職員が度重なる研修と率直な意見交換により、よくまとまって取り組んでいる証である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場独自の理念が「笑顔・家族」であり全員が共有し実践している。分かりやすく短い言葉でと数年前に決めました。	独自の理念を確定後に採用した職員に理解させるのに苦労した。昨年、事情があって職員が多く退職したが、管理者は自ら介護に従事しながら、新採職員に具体的場面で実践、手本を示しながら指導し、理念を浸透させた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	合同行事である夏祭り・秋祭り・餅つきの際などに、地域の方にも参加して頂き交流もっている。	自治会には会社として加入、自治会の草刈りに参加している。会社経営の3施設合同で、夏祭り・秋の文化祭・餅つき等を行い、地域から大勢集まった。いずれも本年はコロナで中止、来訪も断っている。事業所では今後小規模開催を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの機会に、包括支援センターの担当者から地域の方にも話をしたり参考になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接するグループホームと合同で実施している。行事の報告や、施設見学会も取り入れて認知症に関する説明や理解を得ている。	会場は事業所と自治会が交互に設定し、隣接の「グループホームひまわり」と合同で、午後7時から実施している。昨年の評価で、参加者の拡充が提案されたがまだ検討中である。家族には文書通知しているが、まだ参加されていない。	自治会や地域包括との協力関係も良くされており、今後一層の充実のため、民生委員・老人クラブ、テーマによっては消防・警察との協議、家族には毎回呼びかける等、再度工夫が望まれる
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に管理者が本庁へ出向き、現状報告や助言など頂き、時には意見交換をしている。	必要の都度、市本庁の担当課に行き、相談や手続きをしている。生活保護利用者もおり援護課と常時連携、災害対策では危機管理課の資料提供をうけたり、コロナ対策でも資料提供され、事業所で勉強会をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営本社主催や現場での勉強会を年に数回開催し理解を深めている。対策として転倒・転落防止マットを購入したりしている。	定例会議の後、年4回の研修で拘束や虐待防止の勉強をしている。資料はネットから作成している。以前やむなくベッド柵を設置したが、センサーマットの購入で改善した(ただしマット任せにせず、見守りを大切にしている)。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で職員同士が気を付け注意をしあったり、勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネージャーが中心となり対応し職員にも説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入居時に細かく説明し対応している。初動の重要性を理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱設置はしているが家族様は面会時に直接意見・要望を伝えてくれている。重要な内容の時は職員会議等で話し職員全員で共有をしている。	家族来訪時は管理者や職員はざくばらんに話し合っており、来訪困難な家族には適宜電話連絡している。話し合いで利用者の日常を報告し、家族の要望・意見を聞いている。多くの家族は事業所近くにいるので連絡しやすい。話の内容は連絡ノートの記して共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回本社会議があり職員の思い等について管理者が代表者と話をしている。	毎月の職員会議で、利用者の状態や行事の打ち合わせ・研修会等をするが、日常的にも職員とよく話し合っている。いつも率直な意見交換になっている。インドネシア人職員を受入れているが、職員・利用者に溶け込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の状況を把握し、必要に応じて代表者と話をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	デイサービス・ショートステイ・グループホームの職員が委員会や研修会を合同で学習する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修委員会や行事委員会や合同勉強会開催を通じてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から職員は「気付き」に重点を置き安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり親身に耳を傾け、気さくに話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携医や他の隣接関連施設とも連携しながら努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念通り「笑顔・家族」で遠慮せず話せる雰囲気作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の段階で事前調査票を作成しており、入居後は参考にし活用することで関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々での外出等は基本的には家族が対応してもらっている。時には管理者が支援する時もある。	利用者が帰宅や墓参り等を望んだ時は、家族に連れ出してもらっているが、時には管理者が家族に同行することもある。以前の友人・知人が来訪する時もあり、本人が覚えてないこともあるが、友人には再来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに居室を行き来して過ごして見えたりすることもあるが、レクリエーションや行事を通じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後家族等から連絡があれば適切に対応し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は普段から常に声掛けの重要性を確認し合い、思いに寄り添い支援している。	職員は日常の話し合いから、利用者の意欲や気持ちを掴むようにしている。話し合った内容は必ず連絡ノートに記して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から生活歴(事前調査票)を聞き参考にしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回バイタルチェックし温度・湿度管理を徹底している。少しの異変も見逃さないよう現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を通じて皆で話し合い、家族の意向も取り入れながら作成している。変化があればその都度再作成し家族に説明して同意を得ている。	毎月の職員会議で全員モニタリングとカンファレンスをしている。ケアマネジャー(隣接事業所と兼務)が共に出席し、ケアプランに取り入れている。家族には事前に意見聴取、プラン策定後に説明、捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・受診ノート・介護記録を主に職員間で共有し、管理者が不在時でも、早期議題な場合は出勤職員で決定することもある。連絡ノートの必要性が重要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の意向に沿った支援が大切であると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同士話し合いをし色々な知恵を出し楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が訪問診療に来てもらっている他、緊急時に連絡し助言ももらっている。家族が受診に行くケースもある。すべて受診ノートに記録し活用している。	協力医は毎月訪問診療で来診している。2名は他の主治医に受診するが、家族が同行している。専門医への受診は職員が同行するが、今は該当者がいない。診療状況は受診ノートに記し、家族に連絡する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには常勤で看護師はいないがデイサービスやショートステイの看護師に来てもらい助言もらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり病院関係者などと細部にわたり情報交換し対応している。場合によってはショートステイに支援・対応できる体制になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の規模や医療的側面から重度化・終末期対応は困難であり、入居時に家族には説明している。工夫しギリギリまで対応した例もある。	重度化したら対応困難なことを受け入れ時に家族に説明してある。これまで次の受け入れ先が決まるまでは、できる限りのお世話をしたり、救急車を呼んだりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医ホットラインを活用したり、緊急時対応表や勉強会も開催し、発生時に混乱する事がないよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の内、1回は消防署立ち合いで実施。AED使用は現場独自で勉強会をしている。災害や地震も多く発生している事もあり備蓄や備品の管理もし、防災意識を高めている。	総合防災訓練は5月と11月(消防署が立会い)に実施した。被災時の職員連絡体制、役割、利用者避難のマニュアルがあり、自治会と相互協力体制もある。停電が多い地域で、昨年から会社で停電対策を検討しているが、確定していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人本位に沿う形で特に排泄物の処理・対応には気を付けて対応し、声掛けを重要視している。	各居室にトイレがあるので、排泄のプライバシーは守られやすい。失禁した場合、本人のプライドに配慮し、人に気づかれぬよう素早く処理するとともに本人への言葉がけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員皆が本人第一の考えは認識しており対応している。出来る限り希望に沿って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常日頃から職員は話し合い考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	帽子を被っておしゃれしたりされる方もみえる。職員と一緒に服を選んでもらう方もおられその時にあった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂兼居間で食事している。業者委託のメニューは決まっているが和気あいあいとし上げて頂いている。	原材料は業者から一括配送され、添付のレシピにより職員が調理している。メニューには行事食も含むので、それを弁当に詰め出掛ける時もある。利用者の希望から、薄味をやや濃いめの味にしたり、誕生会には赤飯、月1回はちらし寿司を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託のメニューでカロリーなどは管理されている。副食は刻みにする方もいて職員が対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、毎週日曜日にポリドント洗浄確認を行っている。必要時には歯科訪問診療をお願いし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレが設置してありプライバシーは保護している。決められた誘導時間以外に一人一人に合わせて対応も同時にし職員も報告し合っている。	リハビリパンツ使用者が7名いる。失禁したり便器を汚すこともあり、掃除に気を付けている。また便秘対策として食事や薬以外にも便秘体操を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレスを溜めないことが大切だと思っている。お口・お腹の体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後からで(午前はデイサービス)温泉の湯を使用し浴室も広くのんびりと入浴している。週に3回で必要時には回数決めずに対応している。	入浴日は男女交互に設定している。希望すれば入浴日以外や夜間入浴もできるよう配慮している。近くの天然温泉の湯を運んで来ており、浴槽も広く好評である。風呂ぎらいの利用者も働きかけ次第で入浴するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には休憩時間を設けており昼寝をされる方もいる。皆さん時間を有意義に使えるよう数年前から実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表や受診ノートを作成してあり職員は参考にして対応している。症状の変化には瞬時に判断できるよう日頃から気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たくさんの体操や歌、遊びもする一方で趣味で編み物をされている方は帽子を他の入居者様にプレゼントしたりし、それぞれの生活に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「東屋ガーデン」へ散歩し野菜や花を觀賞したり、玄関前で外気浴をしたりしている。年中行事もあり花見や紅葉にも出掛けている。	適宜、散歩や外気浴に出たり、時にはドライブで花見や紅葉狩り、ダムサイトまで出かけている。昨年までは会社が作った近くの「東屋ガーデン」まで時々弁当持ちで出かけた。本年は新型コロナの影響で外出できず、「東屋ガーデン」の野菜の収穫もできず、残念がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで保管しているが、買い物に行きたいと希望があれば管理者・職員と出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現時点でこちらからと言うのはないが、必要時に検討し対応していきたい。ふるさと便りは管理者が家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に檜の香りが感じられ掲示板には行事物、季節に応じた作品が散りばめられており生活感や季節感が随所にみられる。家庭的な雰囲気がゆったりと流れている感じがある。	日中は皆が食堂兼居間に集まったり、廊下の椅子に座り、適宜おしゃべりしたり、手芸品づくり・貼り絵・ぬり絵・ボール遊び等を楽しんでいる。広くはないが、地域の友人たちと関わっていて、部屋に閉じこもることはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は居間やホールしかなく少し狭く感じるが椅子を並べ会話したりレクリエーションをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やホールは木質を使用しており落ち着いた環境で過ごして頂いている。また各居室の中は自由に写真や飾り付けしている所もある。	各部屋にトイレ・洗面台があり、身の回りは自分で整える人もいる。部屋のベッドは利用者の希望で配置し、それぞれの好みで調度品が置かれている。家族来訪時は部屋に入ることもあるが、食堂で話していることが多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間に限りがある(狭い)が、その中で出来る場を作り工夫し支援している。		